

みなさん、この横断幕の写真は、沖縄の普天間第2小学校です。

校庭のフェンスの向こうは普天間基地、授業中でも、校庭で遊んでいるときも、ヘリコプターの爆音がバリバリと響いてきます。この学校をはじめ18ヶ所もの小学校、保育園、病院が、米軍機が離着陸する最も危険な地域にあります。

1959年、嘉手納基地を飛び立ったジェット戦闘機が宮森小学校に墜落、爆発炎上し、11人の小学生が火だるまになって死亡しました。いつ、そんな事故が起きてもおかしくないのが、普天間基地です。

実際、普天間第2小学校では、墜落を想定した避難訓練までやっています。嘉手納基地の近くの学校の調査では、小・中学校9年間の授業のうち、米軍機の騒音で授業が中断した時間の合計が、まるまる2年間分にもなることが分かりました。こんな状況は一日たりとも放置してはなりません。普天間基地は、移設を条件とすることなく、ただちに閉鎖し、撤去すべきです。

「海兵隊は日本を守る抑止力」などという日米安保「絶対」論に、負けてはなりません。安保は、教育も縛っています。

日米両政府は、1951年に日米安保条約を締結し、その2年後、池田・ロバートソン会談をおこない、すすんで武器を取る青少年を育成するために、学校教育を「愛国心と自衛のための精神」を育成するものに転換させることを確認し、子どもと教職員に押しつけてきました。今日の学校現場の管理体制の強化、子どもたちを「国や財界が求める型にはめる」管理教育の大本には、日米安保条約があるのです。

毎年5兆円もの軍事費が教育予算を圧迫しています。思いやり予算で作られた米軍嘉手納基地の中の学校は、建設費40億円、校庭は400メートル・トラック、1学級は20人。日本の子はまだ40人学級です。中学3年まで30人学級にするのに必要な予算は8千億円。軍事費を削れば実施できます。

全教は、今日の集會に、全国の組織から代表が参加しています。今日を出発に、「軍事費を削って、くらし・教育・福祉の充実を」「基地おしつけ、教育の管理統制の大本にある日米安保条約を廃棄せよ！」。この声を、全国に大きく広げていきます。ともに、がんばりましょう。